

## ワクワク はこね温泉 第 3 回 「塔之沢温泉」

菊川城司 (神奈川県温泉地学研究所)

### はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズでご紹介する 3 回目です。今回は、箱根二十湯のうち、塔之沢温泉のおはなしです。

塔之沢温泉は、箱根町塔之沢に所在する温泉の総称です。神奈川県が管理する温泉台帳では、箱根湯本温泉とあわせて「湯本第〇〇号」として記載されています。温泉台帳は、台帳が整備された昭和初期の行政区画によって割り振られており、当時の湯本町に所在する源泉はすべて「湯本第〇〇号」という通し番号がふられているのです。お話が少し横道にそれますが、台帳番号は、源泉が廃坑になっても、その番号が別の新たな源泉に使用されることはありません。廃止された源泉の番号は、欠番となります。つまり、ひとつの台帳番号はひとつだけの源泉を指しており、台帳番号さえ判ればその源泉に関するすべての情報が判る仕組みになっているのです。

### 塔之沢温泉の歴史

塔之沢温泉は、江戸時代には箱根七湯にも数えられた歴史のある温泉場です。当時の温泉ガイド書ともいえる「七湯の枝折」(1811(文化 8)年)には、塔之沢温泉の特徴として「辰砂湯なり温湯にて気味かろし・・・」と記されています。箱根湯本温泉(総湯、現在の湯本第 9 号源泉)は「冷湯にして気味なく・・・」

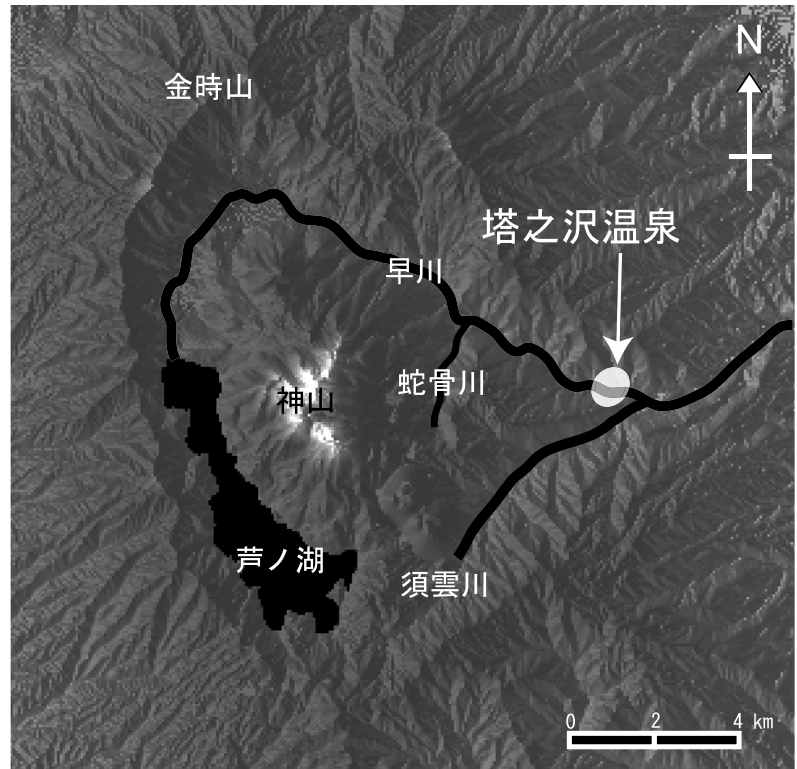


図 1 塔之沢温泉の位置。箱根カルデラの東端、早川沿いに拓けています。

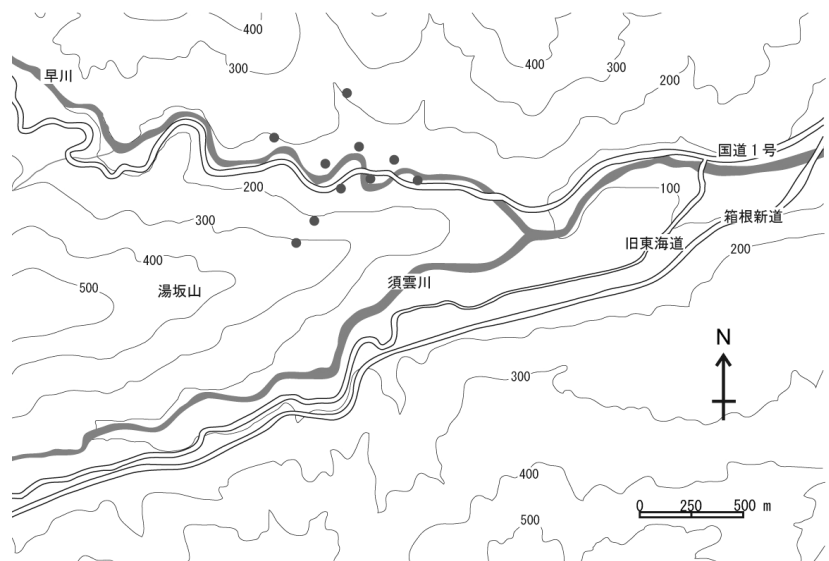


図 2 塔之沢温泉の源泉分布。2006(平成 18)年現在。

と記されていることから、塔之沢温泉のほうが、泉温が高く、温泉に溶けている成分の量も多かったことがうかがえます。また、「辰砂湯」の辰砂とは、硫化水銀から構成されている赤色の鉱物のことです。塔之沢温泉で辰砂は産出されませんが、湯治に使用した手ぬぐいが「うす紅」に染まることから「辰砂の気」に染まると解釈されていたようです。塔之沢温泉の効能について、「七湯の枝折」には「中風、脚気、筋痛、冷症、頭痛、打身」など 23 項目が挙げられており、なかには「子なき婦人入湯すれば懐胎す」として子宝の湯としての効能も掲げられています。

塔之沢温泉の始まりについては、はっきりした時期は判っていません。1841(天保 12)年に編纂が終わった「新編相模国風土記稿」においても、塔之沢の開湯は 1605(慶長 10)年、1630(寛永 7)年や文明の頃(1469～1486年)などの説があると記されています。これは、当時の塔之沢温泉では、いくつかの自然湧泉が利用されており、それぞれの源泉の発見時期が異なるためだとも考えられています。

江戸時代には、箱根の温泉は將軍への献上湯として汲み上げられたこともありました。当時の記録によれば、塔之沢温泉のお湯も、4代將軍家綱、5代將軍綱吉への献上湯として湯樽に詰めて江戸城へと運ばれた



写真 1 塔之沢駅の駅舎。自然に囲まれた閑静な駅です。

ようです。

明治時代初期の温泉の状況をうかがい知るためには、1886(明治 19)年に出版された「日本鉱泉誌」がとても有用です。「日本鉱泉誌」には、各地の温泉の温度や化学分析結果、泉質などが記載されています。塔之沢温泉については、温度が 40.5～45.0℃の塩類泉で、浴客数は明治 14 年から 16 年の平均で年間 18,677 人などと記されています。

明治時代の後半になると、自然湧泉の利用だけでなく、湯坂山の麓に横穴を掘って温泉を探す方法がとられるようになり、大正時代の末には 2ヶ所の横穴湧泉が完成しています。さらに、昭和初期になると、塔

之沢温泉でも豎穴の井戸が掘削されるようになり、その後、掘削される数も増加していきました。しかし、それにあわせて自然湧泉や横穴湧泉の枯渇化も進行し、現在では、掘削した井孔を利用してポンプによって汲み上げた温泉だけが利用されています。

### 塔之沢温泉の現状

塔之沢温泉は、国道 1 号線沿いに拓けた温泉場で、マイカーや路線バスで箱根観光に訪れる人々の大半が経由していく場所です。国道 1 号線で箱根湯本駅を過ぎて少し登ると、落石防止のために昭和 6 年に建設された函嶺洞門があります。お正月に行われる箱根駅伝の選手が通



写真 2 塔之沢駅と箱根登山電車。



写真 3 早川にかかる出山鉄橋を渡る箱根登山電車。



写真 4 塔之沢駅近辺の遊歩道から見下ろした旅館。



写真5 国道1号線の千歳橋付近。国道を上ると、ここから塔之沢温泉が始まります。

り抜けることでもよく知られているこの函嶺洞門を通り抜けると、そこから先が塔之沢温泉です。そこに立ち並ぶ旅館などの建物は、古き良き時代の面影を残して建っています。箱根湯本温泉から塔之沢温泉に向かって、旭橋から函嶺洞門、千歳橋と連続する様は、まるで昭和初期の美しい建築物の展示場のようです。また、塔之沢温泉には、神奈川県内では珍しい山寺である阿弥陀寺があります。この阿弥陀寺は、塔之沢温泉を発見したといわれている弾誓上人が開山したお寺で、この寺に植えられた何千本ものアジサイは、夏になると美しく咲き誇り、人々の目を楽しませています。

2007（平成19）年3月末現在、箱根温泉の源泉は全部で364ヶ所ですが、塔之沢温泉はそのうち10ヶ所を占めています。また、温泉の湧出量は約600L/minで箱根全体の湧出量のうちの約3%を占めています。2006（平成18）年における塔之沢温泉の年間宿泊者数は8つの宿泊施設をあわせて86,321人です。

塔之沢温泉の源泉は、海拔標高118～315mに掘削されています。井戸の深さは、103～800mの範囲です。2006（平成18）年に実施された塔之沢温泉の調査結果をみると、調査した8源泉の平均値で、温度は47.1℃、揚湯量は1分間に

表1 塔之沢温泉の平均値。2006（平成18）年の調査による8源泉の平均値です。

項目	平均値
温度(°C)	47.1
揚湯量(L/min)	85.
pH	8.7
電気伝導度(μS/cm)	869.
ナトリウムイオン(mg/L)	149.
カルシウムイオン(mg/L)	23.4
塩化物イオン(mg/L)	151.
硫酸イオン(mg/L)	141.
炭酸水素イオン(mg/L)	43.6
マケイ酸(mg/L)	68.8
マホウ酸(mg/L)	8.00
成分総計(mg/L)	587.

85リットルでした（表1）。

塔之沢温泉では、温泉を汲み上げるための動力として、エアリフトポンプが7ヶ所、水中ポンプが2ヶ所、タービンポンプが1ヶ所で利用されています。

塔之沢温泉では、神奈川県が定める「神奈川県温泉保護対策要綱」によって、大部分の地域が、温泉を保護するための特別保護地域に指定され、現在では新しい源泉を掘削することはできません。掘削ができるのは、温泉地から離れた山林の中だけです。そこも準保護地域とされ、温泉の汲み上げ量などに厳しい規制がかけられています。温泉は有限な資源であり、いくらでも無限に使え



写真6～8 国道1号線沿いに並ぶ塔之沢の温泉旅館。古き良き時代の香りを残した旅館が並びます。



写真7 塔之沢温泉で利用されている源泉。温泉はエアリフトポンプを利用してここから汲み上げられています。

るわけではありません。過去に自然湧泉が使用できなくなったようなことを繰り返さず、今後も温泉を枯らさずに大切に使うためには、このような規制も必要なのです。

#### 塔之沢温泉の泉質

塔之沢温泉でみられる泉質は、単純温泉とアルカリ性単純温泉の2種類で、温泉に溶けている主な成分は、ナトリウムイオン、塩化物イオン、硫酸イオンなどです（表1）。

温泉の泉質や溶けている成分は、禁忌症や入浴上の注意事項と共に、入浴される方が見やすい場所に掲示しなくてはいけないことになっています。この掲示証を見れば、誰でも、その温泉の詳しい性質が判るようになっているのです。

塔之沢温泉は、箱根湯本温泉と同様に、早川凝灰角礫岩など箱根火山の基盤岩から汲み上げられている温泉ですので、両方の温泉場は親戚のような関係と言えるかもしれません。特に、総湯に代表される箱根湯本温泉の湯場地区の温泉とはよく似

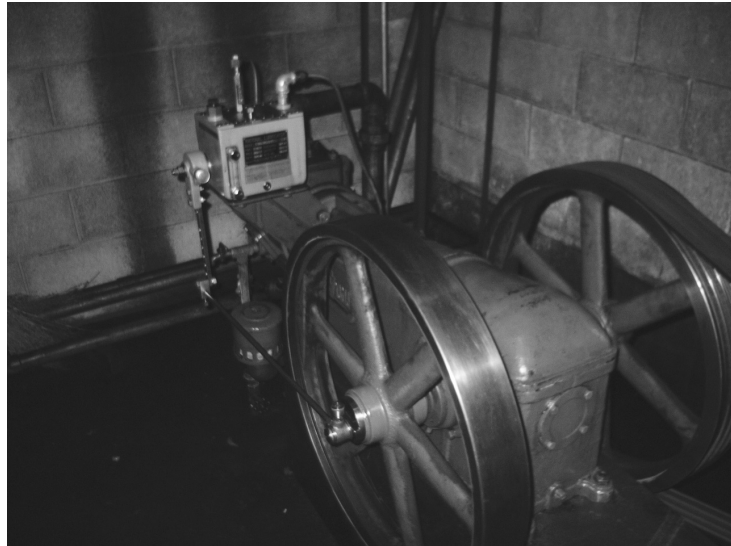


写真8 エアリフトポンプの空気圧縮機。この機械で圧縮された空気を井戸に押し込み、その力で温泉を汲み上げます。

ており、当所の研究成果によれば、温泉の汲み上げ方も同じであると考えられています。

#### おわりに

塔之沢温泉について簡単に紹介しました。次回は、浅間山の東麓に拓けた大平台温泉について紹介します。お楽しみに。